

令和7年度 墨田区立曳舟小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 松塚智加子

学校教育目標	・すすんで学ぶ子 ・なかよく助け合う子 ・心も体もすこやかな子
目指す学校像	・笑顔と活力にあふれ、児童一人一人が自分のよさや個性を發揮できる学校 ・全ての教職員が協働し、質の高い教育活動を実現する学校 ・保護者・地域の方々に信頼され、地域のコアとなる学校
目指す児童像	・生涯にわたって学ぶ意欲をもち、生きる力の基となる考える力のある子供 ・自分も相手も大切にし、協同してやり遂げることができる子供 ・心身ともに健康な体をつくり、自分のよさや個性を發揮できる子供
目指す教師像	・常に子供ファーストの視点をもち、専門性向上に努める教師 ・協働し、チームとして高め合える教師 ・教育公務員としての自覚と使命をもち、保護者・地域の方々から信頼される教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容

質の高い教育活動

- ・確かな学力の育成、向上（R7学力向上マネジメント推進校、R7・8東京都NIE実践指定校）
- ・児童のよさや個性を伸ばす教育（学級指導の充実、高学年教科担任制）
- ・地域、保護者と協働した教育活動（学習支援、行事）

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	1 確かな学力の育成 (1)基礎的な学力の定着・向上	・めあてやゴールの明確化、自力解決、学び合い、まとめと振り返りを明確にした問題解決型の授業設計と実施 ・ICT機器を活用した授業 ・学力向上委員会の開催（R7学力向上マネジメント推進校）	4 教科指導において問題解決型の授業設計と実施 90%以上	4	4 区学力調査69観点について全国平均より5ポイントアップ 90%以上	4	毎時間、めあてやゴールの明確化、自力解決、学び合い、まとめと振り返りを明確にした授業展開を行うことができた。国及び区学力調査では高い水準を保っている。	12月に2回めの学力調査に取り組んだので、調査分析を基に復習をする。各学年、各教科で、発展的かつ探究的な学習をより一層推進していく。	A	A	・立派である。 ・方策は今後、より具体的なものにしてほしい。 ・学力調査で高水準を維持しており、指導力を評価できる。学力が低い児童も引き上げ、一層の学力向上に取り組んでほしい。
			3 教科指導において問題解決型の授業設計と実施 70%以上		3 区学力調査69観点について全国平均より5ポイントアップ 70%以上						
			2 教科指導において問題解決型の授業設計と実施 50%以上		2 区学力調査69観点について全国平均より5ポイントアップ 50%以上						
			1 教科指導において問題解決型の授業設計と実施 50%未満		1 区学力調査69観点について全国平均より5ポイントアップ 50%未満						
	1 確かな学力の育成 (2)論理的思考力・表現力を高める	・探究的な学習活動 ・思考ツールや、プレゼンテーションソフトを活用した発表活動	4 毎日1回以上授業でICT機器を活用する 90%以上	4	4 毎日1回以上ICT機器を活用した授業の実施率 90%以上	4	高学年はテーマを決めて探究的な学習に取り組み、プレゼンテーションソフトを用いて発表することができた。	タブレット端末について、ルールや使い方を見直すとともに、保護者にも周知し、より正しく効果的に使用できるようにする。	A	A	・ICT機器を用いた情報収集や情報発信は、今後さらに重要性が増すため、現状の取り組みを継続し、利活用ための基礎をしっかりと身に付けてほしい。
			3 毎日1回以上授業でICT機器を活用する 70%以上		3 毎日1回以上ICT機器を活用した授業の実施率 70%以上						
			2 毎日1回以上授業でICT機器を活用する 50%以上		2 毎日1回以上ICT機器を活用した授業の実施率 50%以上						
			1 毎日1回以上授業でICT機器を活用する 50%未満		1 毎日1回以上ICT機器を活用した授業の実施率 50%未満						
	1 確かな学力の育成 (3)読解力の育成（校内研究）	・校内研究（研究授業3回、研究を生かした授業を全員2回以上公開） ・高学年におけるNIEの推進（R7・8東京都NIE実践指定校）	4 校内研究を生かした授業展開をする 90%以上	4	4 区学力調査の国語について全国平均より5ポイントアップ 90%以上	4	「主体的に学び、自分の考えを伝え合う児童の育成」を研究テーマとして、低中高学年各1回ずつ計3本の研究授業を実施し、講師を招聘して研究を深めることができた。各学級でNIEの授業を推進した。	引き続き、基礎学力の定着を図る。新聞を学習活動に取り入れ、新聞に親しんだり、新聞を活用したり、新聞を作ったりする活動を行い、情報活用能力や論理的思考力を向上させる。	A	A	・学力低位の児童については、どのように指導しているか。基礎学力の定着か。 ・良い取組だと思う。子どもだったら受けたい新聞活用授業。 ・活字離れの昨今、新聞を用いた活動は大変有意義で、子どもたちに新聞への興味関心を抱かせるのに効果的で、今後の生活にも好影響を与えらると思われる。
			3 校内研究を生かした授業展開をする 70%以上		3 区学力調査の国語について全国平均より5ポイントアップ 70%以上						
2 校内研究を生かした授業展開をする 50%以上			2 区学力調査の国語について全国平均より5ポイントアップ 50%以上								
1 校内研究を生かした授業展開をする 50%未満			1 区学力調査の国語について全国平均より5ポイントアップ 50%未満								
生活指導等	2 自分も友達も大切にすることを推進 (1)教育活動全体を通じた人権教育、道徳教育の推進、いじめ、不登校の未然防止	・年間3回のいじめ防止アンケート及びいじめ防止授業 ・QUアンケートの活用 ・SC、SSW、区子ども家庭総合支援センター、警察署等との連携	4 教ア) 児童アンケート等を活用していじめの早期発見・対応をする 90%以上	4	4 いじめの解消率 90%以上	4	毎週の生活指導夕会を通して児童の実態を理解し、児童の抱える悩みや背景も考慮した支援方法について共通理解を図り、いじめ解消率100%を維持することができた。	生活指導主任を中心として、報告を徹底し、より迅速かつ適切に対応することが課題である。	A	A	・報告体制の「適切」な対応方針を可視化してほしい。 ・自分および他人を大切にすることを、善悪の判断ができる力など、授業や日常の指導の中で育み、子どもにとって学校が、さらに安心して過ごせる場所になってほしいと思う。 ・子ども理解に尽きる。
			3 教ア) 児童アンケート等を活用していじめの早期発見・対応をする 70%以上		3 いじめの解消率 70%以上						
			2 教ア) 児童アンケート等を活用していじめの早期発見・対応をする 50%以上		2 いじめの解消率 50%以上						
			1 教ア) 児童アンケート等を活用していじめの早期発見・対応をする 50%未満		1 いじめの解消率 50%未満						
	2 自分も友達も大切にすることを推進 (3)異学年交流の推進	・たてわり班活動（月1回以上） ・委員会活動について、常時活動の活発化、委員会掲示板の活用	4 教ア) たてわり班活動のA・B評価 90%以上	4	4 保護者ア) なかよく助け合う子A・B評価 90%以上	3	たてわり班活動を月1回以上実施し、高学年の児童が中心となって交流を進めた。	活動の時間をより一層充実できるように、リーダーの6年生に準備の指導を丁寧に行う。多様な児童を認め合えるように、人権教育の充実を図る。	A	A	・学年を超えた交流で得られる社会性や貴重な経験があると思われるので、今後も継続してほしい。 ・子どもはよく助け合いながら成長していると感じる。
			3 教ア) たてわり班活動のA・B評価 70%以上		3 保護者ア) なかよく助け合う子A・B評価 70%以上						
			2 教ア) たてわり班活動のA・B評価 50%以上		2 保護者ア) なかよく助け合う子A・B評価 50%以上						
			1 教ア) たてわり班活動のA・B評価 50%未満		1 保護者ア) なかよく助け合う子A・B評価 50%未満						
	3 体力向上、健康・安全教育の推進 (1)基本的な生活習慣の確立	・曳舟スタンダードの徹底 ・年間目標「あいさつ」の徹底 ・正門での6年生あいさつ運動 ・文中生によるあいさつ運動 ・保健指導、給食指導	4 児ア) あいさつができたA・B評価 90%以上	3	4 保護者ア) あいさつができたA・B評価 90%以上	3	すすんであいさつすることができるように日常的に指導しているが、あいさつができる児童とできない児童が2分している。	学校でも指導を継続するとともに、家庭でも基本的な生活習慣を身に付けてもらうように協力を依頼する。	B	B	・6年生のあいさつ運動は続けてほしい。 ・確かにあいさつができる児童とできない児童に分かれている印象を受ける。こちらから積極的に関わり、進んであいさつしたいと思われる大人でありたいと思う。
			3 児ア) あいさつができたA・B評価 70%以上		3 保護者ア) あいさつができたA・B評価 70%以上						
2 児ア) あいさつができたA・B評価 50%以上			2 保護者ア) あいさつができたA・B評価 50%以上								
1 児ア) あいさつができたA・B評価 50%未満			1 保護者ア) あいさつができたA・B評価 50%未満								

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
学校の管理運営	6 校務改善に向けた取組の推進 (2)教職員としての専門性向上	・職員会議の削減 ・軽減講師の配置 ・夕会でのOJT(週1回 夕会) ・校内研究(研究授業3回、研究を生かした授業を全員2回)	4	OJTの実施・校内研を生かした授業の実施 90%以上	4	4	教ア)専門性が向上したA・B評価 90%以上	年間3回、各種研修等に参加し、学習指導力、生活・進路指導力を高めることができた。学年やブロックの教員で授業を見合ったり助言し合ったりすることができた。	引き続き、週に1回OJT夕会を計画的に行い、教員が互いに高め合うことができるようにする。	A	A	・OJT(実地経験)が最も大切な成長の機会なので、続けてほしい。 ・先日ある会議で先生方が研修等で知識をアップデートしていることを保護者にも共有すると安心感が増すのではないかという意見を聞いた。保護者にも参考になるような話題があればお便り等で共有してはどうか。
			3	OJTの実施・校内研を生かした授業の実施 70%以上		3	教ア)専門性が向上したA・B評価 70%以上					
			2	OJTの実施・校内研を生かした授業の実施 50%以上		2	教ア)専門性が向上したA・B評価 50%以上					
			1	OJTの実施・校内研を生かした授業の実施 50%未満		1	教ア)専門性が向上したA・B評価 50%未満					
	6 校務改善に向けた取組の推進 (4)サービスの厳正	・夕会でのOJT(月1回) ・服務研修(年3回) ・教職員間でのコミュニケーションの活発化	4	OJT(月1回)・服務研修(年3回)の実施 90%以上	4	4	服務事故0 90%以上	夕会や毎月の服務事故防止研修を行い、服務事故0を維持している。	教員同士で互いに言葉を掛け合う雰囲気作りをより一層推進する。	A	A	・先生方や学校の雰囲気はいつも好印象であり、今後も服務研修や言葉を掛け合う雰囲気づくりを継続してほしい。
			3	OJT(月1回)・服務研修(年3回)の実施 70%以上		3	服務事故0 70%以上					
			2	OJT(月1回)・服務研修(年3回)の実施 50%以上		2	服務事故0 50%以上					
			1	OJT(月1回)・服務研修(年3回)の実施 50%未満		1	服務事故0 50%未満					
6 校務改善に向けた取組の推進 (5)「働き方改革」の推進	・校務分掌の再編 ・職員会議の削減 ・定時退勤日(月1回以上) ・20時最終退勤時刻 ・教員用iPadを活用した連絡、情報交換	4	20時最終退勤・定時退勤日(月1回以上) 90%以上	4	4	時間外在校時間 月45時間以内 90%以上	最終退勤時刻を20時に設定し、出張帰りの直帰、定時退勤日を推奨することで、超過勤務の教員は減ってきている。時間外在校時間月45時間を超過する教員がいない月が増えている。	今後も会議や打合せの効率化、精選を進めていく。	A	A	・事務的な部分はさらに効率化を進め、心身の健康に努めていただきたい。	
		3	20時最終退勤・定時退勤日(月1回以上) 70%以上		3	時間外在校時間 月45時間以内 70%以上						
		2	20時最終退勤・定時退勤日(月1回以上) 50%以上		2	時間外在校時間 月45時間以内 50%以上						
		1	20時最終退勤・定時退勤日(月1回以上) 50%未満		1	時間外在校時間 月45時間以内 50%未満						
5 家庭・地域との連携・協働の推進 (1)学校・家庭・地域が一体となった取組の推進	・学習の中で地域人材や地域施設の活用を図り、学習ボランティア、おはなし会、学校図書館ボランティアと連携して教育活動を行う。 ・高学年のキャリア教育(ようこそ先輩)をPTAとの共催で行う。	4	連携した教育活動の推進 90%以上	4	4	保ア、教ア)連携した教育活動の推進A・B評価 90%以上	地域人材や保護者による学習ボランティアの取組が充実しており、学習内容の定着にも繋がっている。	今後も児童が地域の皆様から大切にされていることを実感できるような取組を継続していく。レガシーを引き継ぎ、次の開校100周年に向けて、愛校心を育んでいく。	A	A	・保護者による学習ボランティアの取り組みが浸透しており、児童がそうした環境で学習することで地域とのつながりや安心につながると考えられるので、継続してほしい。 ・さらに連携と充実を図っていきたい。	
		3	連携した教育活動の推進 70%以上		3	保ア、教ア)連携した教育活動の推進A・B評価 70%以上						
		2	連携した教育活動の推進 50%以上		2	保ア、教ア)連携した教育活動の推進A・B評価 50%以上						
		1	連携した教育活動の推進 50%未満		1	保ア、教ア)連携した教育活動の推進A・B評価 50%未満						
5 家庭・地域との連携・協働の推進 (3)学校評価を活用した教育活動の推進	・フォームス等を活用した各種アンケート調査(行事、年度末) ・アンケートを基にした分掌部会の開催、改善策の立案、発信、実践 ・学校運営連絡協議会の開催(年3回)	4	アンケート調査を基にした改善策の立案、発信、実践 90%以上	4	4	保ア)学校評価を活用した学校運営A・B評価 90%以上	行事のアンケート等では好意的な意見が増え、保護者が学校を応援している雰囲気が醸成されている。今年度は学校評価のアンケートを2回行い、分析したものを教育活動に生かした。	学校評価の活用については、より分かりやすく保護者に発信するようにする。	A	A	・保護者が学校に好意的な印象をもっている様子が地域での様子を見てうかがえる。アンケートでは賛否、多くの意見が寄せられると思われるが、よりよい学校運営につなげてほしい。	
		3	アンケート調査を基にした改善策の立案、発信、実践 70%以上		3	保ア)学校評価を活用した学校運営A・B評価 70%以上						
		2	アンケート調査を基にした改善策の立案、発信、実践 50%以上		2	保ア)学校評価を活用した学校運営A・B評価 50%以上						
		1	アンケート調査を基にした改善策の立案、発信、実践 50%未満		1	保ア)学校評価を活用した学校運営A・B評価 50%未満						
5 家庭・地域との連携・協働の推進 (4)積極的な情報発信	・学校だより、学年、給食、保健だより発行(月1回) ・学校ホームページの更新(週1回) ・正門前の掲示板活用 ・日常的な保護者への連絡(連絡帳、電話)	4	学校HPの更新週1回以上 90%以上	4	4	保ア)適確な情報発信A・B評価 90%以上	学校だよりや、学校ホームページで学校の情報を迅速に発信するとともに、教育活動の様子なども定期的に発信することができた。	学校からの文書について、保護者や地域の意向を確認しながら、さらなる効率化を図る。	A	A	・学校だよりで学校の様子を知ることができる。個人的には、学校だよりは紙よりHPに掲載されるPDFのリンクをメールで連絡いただく方がカラーで写真が見られてうれしい。	
		3	学校HPの更新週1回以上 70%以上		3	保ア)適確な情報発信A・B評価 70%以上						
		2	学校HPの更新週1回以上 50%以上		2	保ア)適確な情報発信A・B評価 50%以上						
		1	学校HPの更新週1回以上 50%未満		1	保ア)適確な情報発信A・B評価 50%未満						

○令和7年度 学校経営報告のまとめ(総括)

教科指導、生活指導、学校行事など、より児童が楽しく学校へ通えるように、教職員の共通理解と企画準備を十分に行い、教育活動の一層の充実を図る。地域人材や保護者による学習ボランティアの取組を充実させ、学習内容の定着にも繋げる。児童が地域の皆様から大切にされていることを実感できるような取組を継続していく。学校運営連絡協議会委員の方からは、高い学力水準の維持、行事での児童の主体的な姿、学校全体の温かな雰囲気、保護者の皆様の協力体制など、良好な学校運営が評価された。こうした取組や支え合いの姿は、曳舟小に受け継がれてきたよき伝統でもある。今後も保護者・地域の皆様から賛同が得られ、支援していただけるような学校経営を行っていく。